

# 「令和元年度決算の概要」のポイント

## 1 予算を上回る純利益

区分	予算見込	決算値	増減
純利益（上水）	159,518 千円	252,422 千円	+92,904 千円
純利益（下水）	58,689 千円	141,629 千円	+82,940 千円

上下水道とも有収率（収入につながった水量の割合）が予算の見込を上回りました。効率的な事業運営で経費を節減できたことなどにより、予算を上回る純利益を計上することができました。（資料P 1、P 5）

## 2 人口・戸数の増加

区分	予算見込	決算値	増減	増減率
行政区域内人口	118,375 人	119,409 人	+1,034 人	+0.9%
給水戸数	50,777 戸	51,246 戸	+469 戸	+0.9%

令和元年度は、宅地開発などにより住宅の建設が比較的好調だったこともあり、人口・戸数は予算の見込を上回りました。（資料P 3、P 7（2）業務量）

加入金については、予算の見込ほどの伸びはありませんでした。（資料P 1）

## 3 有収水量（収入につながった水量）

区分	予算見込	決算値	増減	増減率
有収水量（上水）	10,124,292 m <sup>3</sup>	10,254,303 m <sup>3</sup>	+130,011 m <sup>3</sup>	+1.3%
有収水量（下水）	11,455,250 m <sup>3</sup>	11,352,763 m <sup>3</sup>	△102,487 m <sup>3</sup>	△0.9%

上水では人口・戸数の増加を反映し、有収水量は予算の見込を上回りました（資料P 1「給水収益」）。下水では南幌町からの汚水量が約82,000m<sup>3</sup>少なかったことなどにより、予算の見込を下回っています。（P 5「その他営業収益」）

## 4 両事業会計の資金残高

区分	平成 30 年度	令和元年度	増減
資金残高（上水）	1,363,062 千円	1,288,708 千円	△74,354 千円
資金残高（下水）	587,532 千円	659,445 千円	+71,913 千円

下水道事業会計の運転資金を確保するため、水道メータ地上化費用の水道事業会計への出資を令和元年度に中止しました。

予定どおり下水道事業会計の資金残高が増え、水道事業会計の資金残高は減りました（資料P 2、P 7の「未使用補填財源」）。上下水道ビジョンとの比較では、上水が約1億円、下水が約2千万円計画を上回っています（資料P 10、P 12）。

計画の後半では上水の資金確保が必要と見込んでいますので、今後の資金残高がどのように推移していくのか注視する必要があります。